

分野	授業教目名	単元名	単位数	時間数	履修時期	担当教師
統合分野	在宅看護論	69 在宅看技術論 I	1	30	2年次後期	甲賀 純子 医療ソーシャルワーカー

テキスト(発行所)	地域療養を支えるケア(メディカ出版)
テキスト以外の教材、参考図書	必要な資料は適宜配布します

学習のねらい	生活する場に訪問する看護師の姿勢について学び、信頼関係形成のあり方を学ぶ。 その人らしく日常生活を過ごせるように在宅での日常生活援助技術や教育的な関わりを学ぶ。 また、日常にある物品の工夫や福祉用具の活用について学ぶ。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問に必要な準備とマナーについて理解する。 2. 初回訪問の面接技術について理解する。 3. 対象の理解に必要な信頼関係の形成について理解する。 4. 信頼関係の形成に必要な資質・能力について理解する。 5. 在宅における安全性の保障に向けたリスクマネジメントについて理解する。 6. 療養者の日常生活を生活行為として統合的にとらえ、アセスメント能力を身につける。 7. 在宅における日常生活への援助技術を学ぶ。 8. 指導的関わりのためのアセスメントを理解する。 9. 指導的関わりのポイントを理解する。 10. 福祉用具の活用に向けた選定基準と活用方法を理解する。

学習スケジュール

	主題	学習内容	履修形態 他
1回	在宅の場での必要な看護技術	1)在宅で必要な看護技術の考え方 2)生活行為のアセスメントの視点 3)身近な物品の代用と工夫	講義
2回	訪問に向けた接遇と面接技術	1)マナー	講義 演習 在宅実習室
3回		2)初回訪問時の注意点 3)面接技術 4)信頼関係形成・コミュニケーション技術	
4回	福祉用具の選定基準と活用方法	1)物品の種類とコスト	講義 演習
5回		2)物品と環境と利用目的の関係 3)対象に応じた物品の選定 4)事例検討	
6回 (45分)	在宅で求められる日常生活への看護技術の応用①	1)食生活・嚥下に関する在宅看護技術 (1)嚥下機能のアセスメント (2)ケアの実際	講義
7回	在宅で求められる日常生活への看護技術の応用②	2)排泄に関する在宅看護技術 (1)排泄機能のアセスメント (2)ケアの実際	講義

	主題	学習内容	履修形態 他
8回	在宅における指導技術①	1)指導技術の基本 2)指導案の作成方法 3)グループワークの説明	講義
9回	在宅における指導技術②	1)社会資源の活用に関する家族への指導の実際 ～事例に対する指導計画書の作成	グループワーク
10回			
11回	在宅における指導技術③	2)グループワークの発表 指導の実際を発表し合う	演習 ロールプレイ
12回	社会資源の活用	1)入院前・中からの支援～社会福祉の立場から (1)生活支援	講義(外部講師) 医療ソーシャルワーカー
13回	在宅で求められる日常生活への看護技術の応用③	1)移動・移乗に関する在宅看護技術 (1)移動・移乗のアセスメント (2)屋内・屋外の転倒のリスク 2)人の自然な体の動きと介助方法 (1)座位から立位 (2)歩行 (3)台を使った方法 (4)持ち上げない介助方法 (5)床からの起き上がり方法 3)介護予防に対する援助技術 (1)自立支援 (2)ベッド上でできる体操 4)ベッド上での体の動かし方 5)身近な道具を使った移動方法 6)ベッドと車いす間の移乗の部分介助方法 7)1人で実施する移乗の全介助方法	実習室 演習
14回(45分)			
15回	在宅で求められる日常生活への看護技術の応用④	1)家庭にある物品でできる日常生活援助技術 (背部浴・洗髪・更衣介助)	実習室 演習
16回		(1)自宅でできる蒸しタオルの作り方 (2)背部浴 (3)クレーパッドの作り方 (4)洗髪 (5)更衣の介助方法(パジャマ)	

単位認定 の方法	1. 30時間のうち、80 %以上の出席があること 2. 終講テスト…100点満点 3. 1の条件を満たし、かつ2が60点以上で合格とする。
受講上の アドバイス	<p>日常生活援助技術では、基礎看護学で学んだ看護技術を基に、身近な物品を利用して家族が介護できる方法と留意点を体験を通して学んでいきます。</p> <p>さまざまな原因で日常生活が困難で、介助を必要とする療養者が生活をされています。生活行為についてのアセスメントの仕方を学び、既習の援助方法（看護技術）を基に、家族が自宅で実施できる介助方法について、自宅にある物品の活用方法を学びます。発想の転換を体験し、楽しく生活援助技術が学び合えることを期待します。</p> <p>日常生活を送る上では、直接的な介助だけでなく、社会資源の活用も重要です。社会資源を家族や療養者へ分かりやすく指導できる力を身につけていきたいと思えます。社会資源の活用について最終的に決定するのは、療養者・家族です。情報提供の工夫や支援方法について学びましょう。</p> <p>演習に向けて、必要な物品がある場合や知識の確認を必要とする場合は、事前にお知らせします。</p>
担当教員の 実務経験	病院で看護師としての実務経験あり